












交通基盤部長 //	部長代理 	理事(土木技術担当) 	理事(高次都市機能担当) 
都市局長 	景観まちづくり監 	調整監 	
生活排水課長 	課長代理 	課員 	 

復 命 書

平成 28 年 8 月 12 日

交通基盤部長 様

交通基盤部長

村松 篤



生活排水課 計画班長

紅野 伸修



出張年月日	2016年(平成28年)8月4日(木)～9日(火)		
出張先	モンゴル国(ウランバートル市、ドルノゴビ県サインシャンド郡)		
出張者	交通基盤部長	村松 篤	
	生活排水課 計画班	班長 紅野 伸修	
出張要件	JICA 草の根技術協力事業『ドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト』の実施に伴う関係者とのプロジェクト調整		

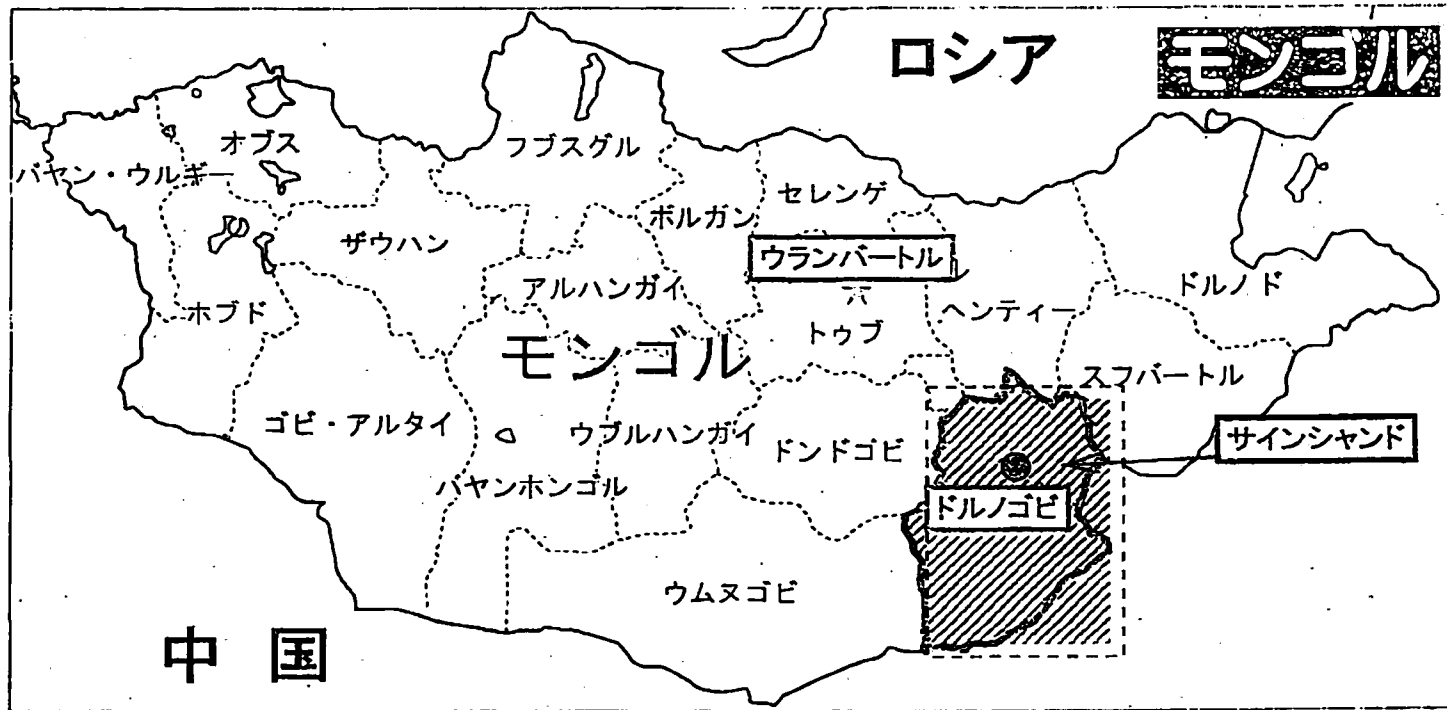
○目 的

本県とモンゴル国ドルノゴビ県は、2011年(平成23年)7月に友好協定を締結し、これ以後、経済、教育、文化、環境保護など様々な分野で交流が進んでいる。今年、友好協定の締結から5周年を迎え、今回、川勝知事を団長として、県議会議員、首長、県職員、教育委員会職員、大学関係者、高校生、民間企業等からなるモンゴル国訪問団を組織した。

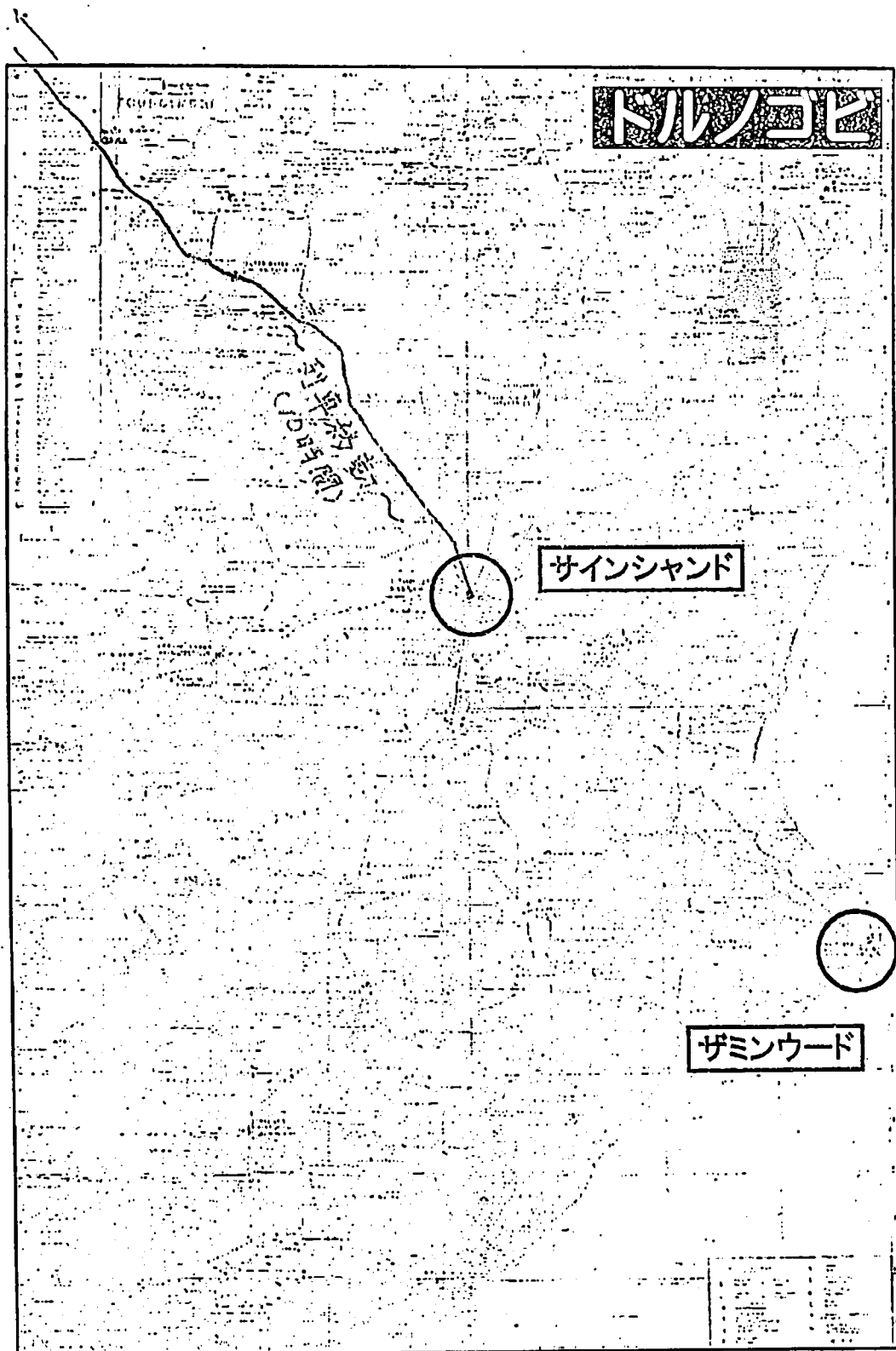
現在、交通基盤部においては、都市局生活排水課が中心となり独立行政法人国際協力機構(JICA)の「草の根技術協力事業」によるモンゴル国「ドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト」(H27～H29年度)を実施しており、今回、知事訪問団の一員(インフラ団)として、ドルノゴビ県関係者等とのプロジェクトの調整を目的に、8月4日(木)～9日(火)までの6日間、モンゴル国に出張した。

○訪問先(訪問日順)

- ・ JICAモンゴル事務所 (ウランバートル市)
- ・ モンゴル国建設・都市開発省 (ウランバートル市)
- ・ ドルノゴビ県庁【知事同行】 (ドルノゴビ県サインシャンド郡)
- ・ チャンダマン・イルチ上下水道・温水供給公社及び簡易下水処理場、旧処理場跡地、新処理場計画地 (ドルノゴビ県サインシャンド郡)
- ・ 在モンゴル日本国大使館 (ウランバートル市)



至ウランバートル市



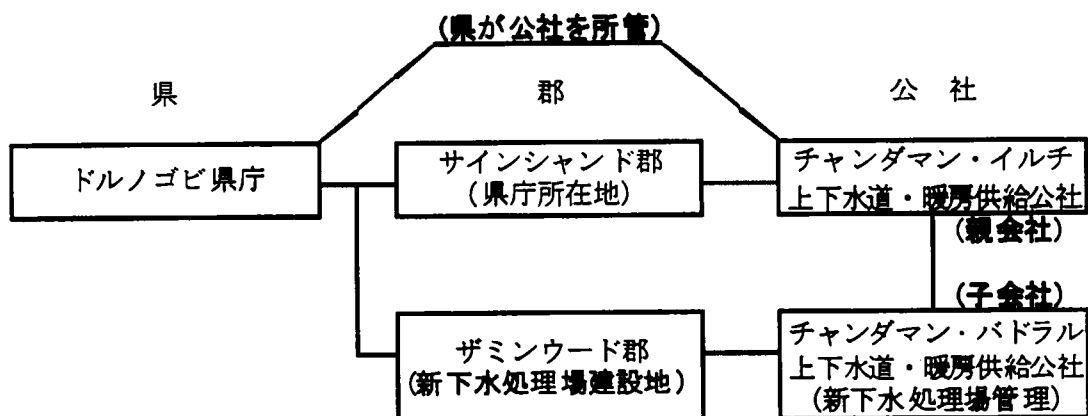
○出張行程（6日間）

日付	時刻	移動手段	備考
2016/8/4 (木)	午後	静岡空港 発	18時10分発
	深夜	チンギスハーン空港 着 (ナインホテル泊)	23時20分着
2016/8/5 (金)	午前	JICAモンゴル〔事業調整〕	沢田次長、丸山企画調整員
	午後	モンゴル国建設・都市開発省〔事業調整〕	ビレグジャルガル部長、オヨンチメグ主査 チャンダマンバドラル公社 サンライジヤブ社長
	夕方	ウランバートル駅 発 (列車中泊)	
2016/8/6 (土)	深夜	サインシャント駅 着	
	午前	チャンダマン・イルチ公社〔事業調整〕	チャンダマンイルチ公社 トゥムルホヤグ社長 ムンフバータル チーフエンジニア チャンダマンバドラル公社 サンライジヤブ社長 ノヤラー ドルノゴビ県開発戦略課長 ほか
	午後	現地視察	・ 簡易下水処理場 ・ 旧下水処理場跡地 ・ 新下水処理場計画地
	夕方	歓迎夕食会 (チャンダマン・イルチ公社主催) (イフソヨンホテル泊)	
2016/8/7 (日)	午前	ドルノゴビ県庁訪問 (知事同行)	ドルノゴビ県知事 ドルノゴビ県副知事 ドルノゴビ県県議会議長 ドルノゴビ県議会事務局長 ほか
	昼～午後	ドルノゴビ県主催昼食会 (ミニナーダム)	
	夕方	ドルノゴビ県主催夕食会	ドルノゴビ県知事 ほか
	夜	サインシャント駅 発 (寝台列車泊)	
2016/8/8 (月)	朝	ウランバートル駅 着	
	午前	在モンゴル日本国大使館〔表敬〕	穂積二等書記官
	夕方	静岡県知事主催合同懇親会 (ホテルナイン泊)	
2016/8/9 (火)	昼	チンギスハーン空港 発	12時00分発
	夕方	静岡空港 着	16時30分着

○モンゴル訪問成果

- ・ JICA モンゴル事務所をはじめ、予定していた関係機関（者）とのプロジェクト調整は滞りなく実施され、今後のプロジェクトの活動方針・内容に関する説明に対し、関係者の理解を得た。各関係機関からは、本プロジェクトの順調な進捗に対する謝意と今後の継続的な取組への期待が示された。
- ・ モンゴル国建設・都市開発省との会談では、当交通基盤部が平成 24 年度から実施しているドルノゴビ県に対する下水道技術支援のこれまでの取組が高く評価され、8 月末に本県技術職員がドルノゴビ県で実施する下水道技術研修（第 1 回）に、モンゴル全 21 県の技術者を参加させてほしいとの申し出があり、これを受け入れることとした。
- ・ モンゴル国においては 6 月末に国政・地方選挙が行われ、政権が民主党から人民党に交代し、この影響で国・県幹部の人事が刷新され、ドルノゴビ県においても知事、副知事、県議会議長、行政部長ほか大幅な人事交代があった。こうした中で行われた川勝知事とドルノゴビ県のエンフトゥヴシン知事との会談では、両県の間で締結した友好協定の継続が確認された。この後に開催されたドルノゴビ県主催の晩餐会の席上、村松交通基盤部長が両県知事ほか幹部職員を前に、本プロジェクトの取組状況やモンゴル国建設・都市開発省からの申し出の内容を説明し、エンフトゥヴシン知事から感謝の言葉を受けた。
- ・ 静岡県知事主催合同懇親会において、村松交通基盤部長から清水在モンゴル日本国特命全権大使に、本プロジェクトの概要やモンゴル国建設・都市開発省からの申し出の内容を説明した。清水大使は、本プロジェクトへの理解を示し、私どもへの労いの言葉とともに、取り組んでいく上で何か問題があれば相談して下さいとの話があった。

<ドルノゴビ県関係団体相関図>



○関係機関会談状況

【 JICAモンゴル事務所 】

- ・ 訪問日：2016年（平成28年）8月5日（金）午前
- ・ 面談者：沢田次長、丸山企画調査員
- ・ 目的：モンゴル国「ドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト」の事業調整

<沢田次長、丸山調査員コメント>

- ・ JICA 中部を通じて、静岡県が実施している「ドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト」は順調に進んでいると聞いており、関係者の皆さまには大変感謝申し上げます。
- ・ 8月末から実施される静岡県技術職員の現地派遣は、派遣期間（15日間）が少し長く、先方も非常に高い期待を持っているでしょうし、現地技術者から寄せられる様々な質問にできるだけ答えてあげてほしい。
- ・ 5月末に実施した4名のモンゴル人受入研修では、ドルノゴビ県庁のバイルマー主任以外は下水処理に関わる技術者ということで、人選が適切に行われたと思っています。しかし、ザミンウードの新下水処理場の運転がまだ開始されていないようで、折角、静岡県で教わった知識や技術が使われなく、時間が経過してしまうことで忘れてしまうことが心配である。
- ・ ドルノゴビ県知事はガンホヤグ氏からエンフトゥヴシン氏に代わりましたが、新県知事は、元々は行政官でしたので、普通に考えれば新下水処理場の稼働も前向きに考えているのではないかと。もし、新県知事と面会する機会があるようでしたら、この下水道プロジェクトに対してどのような考えを持っているか、私どもにも情報をいただきたい。
- ・ 6月末に実施された選挙の影響で、ドルノゴビ県の幹部も上層部から順に交代していくでしょう。まず、知事、副知事、局長が交代し、上下水道公社（チャンダマン・イルチ、チャンダマン・バドラル）の社長クラスは、9月頃までは同じ方が留まる可能性がある。立場により交代となるタイミングは結構ずれることが多く、現地技術者については、選挙の影響もなく、今後も交代なく続けられていくと思う。
- ・ 人民党が圧勝し、過去4年間の民主党政治が国民から否定され、保守の人民党に政権が戻ったことで、これから先は安定するのではないかと期待を込めて見ている。一方で、野党が弱いので、色々な意見が反映されず、独善的な政治となる可能性もあり、注意深く見ていかなければいけないとも思っている。これが、地方に行った時に、どのように出てくるのかがわからないところで、やはり、人民党の強い力で進んでいくかと思う。それが、静岡県やJICAにとって望ましい形であれば良いが、この方（新県知事）がJICAや日本（静岡県）と今まで繋がりが無いのであれば、最初から、ゼロから築いていかなければならないということで、私どもも注意をして見ていく。

- ・ モンゴルでは各県の上下水道公社がバラバラで横の繋がりがなく、単独、独立している。日本の場合は、例えば下水道事業団が各自治体の技術者を集めて研修等をすると思う。必然的にノウハウも持っていて、人材育成というものは、人を循環させることで知見を蓄えていったと理解する。こうしたことは、モンゴルでは中々進まない。
- ・ 静岡県は友好協定に基づきドルノゴビ県と下水道の交流をされてきた。これから先もドルノゴビ県が中心となると思うが、例えば、モンゴル国の他の県やウランバートル市などの下水道交流は考えられるのか。モンゴルには、静岡県から現職教員をボランティアで出してもらっている。現在、モンゴルには 60 名の教員がいるが、静岡県出身者が 3 名で、うち 2 名が現職教員である。下水道関係でモンゴルと交流している日本の県は他にはない。上水道では、寒冷地繋がりで札幌市がウランバートル市と協定を結んで交流をしている。現在、モンゴルでは北東アジア都市会議を開催しており、ウランバートル市がホストとなり、そこには新潟市が加わっている。
- ・ 結果的にモンゴル国に特定せずに、ボランティアとして教師を送り出す日本の県はいくつかある。その場合は、モンゴル国の場合もあるし、ネパールや他の国の場合もある。静岡県は、モンゴル国に集中して交流しており、これは特殊なケースである。草の根技術協力事業で見た時には、北海道や道内の市が消防、水道、植林で協力しているが、北海道としてそれら全てを管轄はしていない。あくまで各自治体ごとの交流である。
- ・ JICA モンゴルには、日本人 12 名、モンゴルスタッフ 20 名の計 32 名が在席している。JICA 事務所の規模としては、インドネシアやベトナムの事務所が一番大きく、モンゴル事務所は順番で言えば 13~15 番くらいである。現在、ボランティア事業が 60 件、プロジェクトを 10 件程度実施している。プロジェクトそのものは、専門家、自治体職員、大学、コンサルタントの方が実施し、JICA 職員はマネジメントを行っている。
- ・ 先日、国政・地方選挙があり、その後、アジア・ヨーロッパ国際会議が行われた。この国そのものはイスラムの影響はほとんどないが、外から入ってくることは私たちも読めない。選挙、会議も無事に終わり一段落しているが、今、世界ではどこで何があってもおかしくない状況である。モンゴルだからと言って安心はできない。
- ・ JICA 事業では、職員はマネジメントを行い、プロジェクトそのものは専門家や自治体職員、大学、コンサルタントが実施する。丸山企画調査員は技術協力事業を 5~6 件担当しており、予算やモンゴル側との調整、事務手続きを担っている。
- ・ 草の根技術協力事業では、フェイズ 2 のような形で事業を実施している団体もある。現プロジェクトの進捗を見ながら、一定の成果を上げて、さらに上というように整理していく。技術移転や人材育成は成果として中々見えにくいですが、下水処理場の運転が適切にされ、技術者が育ち、レベルは 100 点とはいかなくても、できなかったことがここまですることができるようになったと言うようにプロジェクトを通じた成果が見えるとありがたい。

次のフェイズをやるにしても、ここまでやって、次はここまでやるというように目に見えて示せるものがあると助かるので、研修の写真や成果、指導の結果などを記録しておいていただきたい。私どももモンゴル国内をはじめ、日本国内、他の国々や組織に広報し、成果を示すことができる。

- ・ JICA 事業は、自治体をはじめとした多くの関係団体の支援や協力のもとで成り立っている。自治体の人的体制が厳しい状況であることも承知しているが、静岡県におかれては、モンゴル国（ドルノゴビ県）との友好協力関係の方針が変わることがないよう、今後も地域外交を続けていただきたい。

【 モンゴル国建設・都市開発省 】

- ・ 訪問日：2016年（平成28年）8月5日（金）午後
- ・ 面談者：ビレグジャルガル部長、オヨンチメグ主査（DG 県の下水道処理場担当者）
 チャンダマン・バドラル上下水道・暖房供給公社 サンライジャブ社長
- ・ 目的：モンゴル国「ドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト」の事業調整

<ビレグジャルガル部長、オヨンチメグ主査コメント>

- ・ 静岡県の皆さまが、私どもモンゴル国建設・都市開発省を訪問いただいたことを大変うれしく思う。また、ドルノゴビ県に対し取り組まれている下水道プロジェクトについて感謝申し上げる。
- ・ ドルノゴビ県のインフラ環境を改善するプロジェクトは2010年から始まったもので、モンゴル政府は、ザミンウード郡は今のところは郡ですが、これからもっと経済的な面が拡大し大きな都市になると考えており、中国の支援を受けて下水道処理場の建設プロジェクトが行われた。ザミンウード郡はモンゴルでは一番南に位置する街で、中国と国境を接し、これからも経済発展と人口増が見込まれる。
- ・ モンゴル国では一番北の街にロシアと国境を接するアルタムルグ郡があり、ザミンウード郡まで舗装道路ができています。モンゴル国を位置的に見ると、アジアとヨーロッパの真ん中で、それを繋ぐトランジットができるように物流とか経済面で発展していく見方があるので大事にしている。ザミンウードからアルタムルグまで高速道路を整備する話もある。静岡県の皆さまが、その街（ザミンウード郡）でモンゴル人技術者への技術指導や人材育成に取り組んで下さっていることに対し心からうれしく思う。静岡県が取り組まれているドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト以外でも、皆さまと色々な場で協力を受けたいと思う。

<チャンダマン・イルチ公社 サンライジャブ社長コメント>

- ・ 現在のザミンウッド郡の人口は2万人くらいであり、今後、5万人に増えていき、さらに物流関係事業が順調にいけば10万人くらいまで人口が増加するでしょう。2006年にJICAによるザミンウッド郡の人口調査が行われ、当時のザミンウッド郡の人口は5千人で、2014年に1万7千人になると算定されていた。実際に2014年の登録人口を見るとJICAが算定した数値から80人しかずれておらず、日本の調査精度の高さに驚かされた。
- ・ ザミンウッド郡の新下水処理場は、モンゴル国初の処理水を再利用できる処理場である。中国（人）が建てる処理場は、良い点も悪い点もあり、一部は古い技術を一部は新しい技術を使っているが、それを知識や技術を持っている日本人の皆さまが補って、将来、このプロジェクトがもっと盛んになり、上手くいくこととなるでしょう。
- ・ 静岡県で今年の6月に研修を受けたチャンダマン・バドラル公社の技術者たちは、モンゴルに帰国して、日本に行くまでは、ザミンウッド郡に建設された新下水処理場は、世界のスタンダード技術でやっているものだと思っていたが、比べてみると、ザミンウッド郡の新処理場は人が働くために建てられていないと感じている。このことは、技術者の知識が増えたことだと感じている。
- ・ チャンダマン・バドラル公社は、設立して今年2年目で若い技術者が多い。これからの人材育成は非常に重要であり、私はこのことを良く把握してこれから取り組んでいきたいと思う。現在、私は公社の社長の立場だが、先日の選挙の影響で交代する可能性もある。私の願いは私の立場を維持することではなく、若い技術者の育成である。

<ピレグジャルガル部長、オヨンチメグ主査コメント>

- ・ モンゴル国には21県あり、21県ごとに上下水道を担当している公社がある。予算は私ども建設・都市開発省が所管しているが、地方の下水処理場は老朽化し、技術も遅れていることが多く、こうしたことに対する政策も私どもが取り組んでいる。このようなことを言っても良いかわからないが、静岡県の皆さまにお願いがある。静岡県はドルノゴビ県と交流して技術者の育成に力を入れているが、それに関する研修にモンゴル21県の公社の技術者を参加させていただくことができないか。
- ・ 選挙による下水道プロジェクトへの影響については、今回、政権は代わったが、このようなプロジェクトは心配する必要はないと思う。今回のプロジェクトは普通のものとは違い、政府関係のプロジェクトであり、これからも継続していくと思う。もし、皆さんがリスクがあると考えるのであれば、建設・都市開発省と協定書を締結することもあり得る。私どもは、このプロジェクトがもっと上手くいくように、地方（ドルノゴビ県）とも力を合わせて取り組んでいく。

- 改めてお願いしたいが、静岡県**の技術者が8月下旬にザミンウッド郡で実施する講義にモンゴル国21県の技術者を参加させてほしい。講義参加に伴う追加の費用は、建設・都市開発省で負担し、受け入れ場所(会場)は、チャンダマン・パドラル公社が対応する。**このような大事な講義には、遠い北部の地方からも参加を希望するでしょう。皆さんの優れた知識や技術をモンゴルの技術者に教えていただきたい。
- もし必要ならば、参加する21県にある下水処理場の情報を集めたり、皆さんの講義に役立つための資料づくりも行い、できるだけ皆さんに負担がかからないよう調整していきたいと思う。
- 現在、アジア開発銀行の支援を受けて、モンゴル県の4つの県(ドルノゴビ県サインシャンド郡、ウムヌゴビ県、ウブルハンガイ県、アルハンガイ県)で新しい下水処理場の計画を立てている。今朝も私どもはその件で会議を行いました。一つの県の下水処理場の処理能力は3,000~4,000m³/日です。もし、皆さんの実施する研修にモンゴルの技術者が参加できれば、この計画にどんな方法や技術を使うことが適切か学ぶこともでき、時期としても大変良い研修です。また、残りの県についても、今後、下水処理場の計画を立てていく。**
- 私どもからの提案(21県の技術者の研修参加)は、静岡県の皆さんが取り組むザミンウッド郡の新下水処理場の技術支援からはじまったもので、ドルノゴビ県に留まらないこれまでよりも大きく踏み込んだものである。モンゴルの技術者たちが、安定した下水処理場で働けるよう、能力を持っている技術者の育成のために皆さんの協力は本当になければならないもので、これからできるだけ多くの下水道に関する授業を主導してくれることを願っている。**

【 チャンダマン・イルチ上下水道・暖房供給公社 】

- ・ 訪問日：2016年(平成28年)8月6日(土)午前
- ・ 面談者：トゥムルホヤグ社長、ムンフパータル チーフエンジニア、トゥブシンバヤル
 チャンダマン・パドラル上下水道・暖房供給公社 サンライジャブ社長
 ドルノゴビ県開発戦略課 バヤラー課長
- ・ 目的：モンゴル国「ドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト」の事業調整

<チャンダマン・イルチ公社関係者コメント>

- ・ 昨日までは、サインシャンドはととても暑い日が続き40度まで気温があったのですが、本日は、いくらか気温が下がっている。この暑さを気にせず日本からお越し下さったことを改めて感謝申し上げます。このプロジェクトは、政権が代わっても成功できるような限り力を入れていきたいと思う。

- ・ 今年はドルノゴビ県と静岡県が友好協定を締結して5周年です。こうした時に、ドルノゴビ県の技術者が静岡県を訪問して、下水道の技術研修を受けさせていただいたことを大変うれしく思っています。この研修には、当社の技術者アルタンゲレルが参加させていただいた。
- ・ ドルノゴビ県のガンホヤグ知事と静岡県の川勝知事が力を入れて両県の友好協定を締結したことによって、色々なプロジェクトが実施されているが、その中でも大事なプロジェクトは皆さんが実施している下水道運営能力向上プロジェクトです。
- ・ チャンダマン・イルチ公社では、現在、サインシャンド郡の新下水処理場の計画を立てている。アルタンゲレルは、静岡県で受けた研修の内容を同僚たちに説明し、セミナーも行いました。昨日の建設・都市開発省からの提案（21県の技術者の研修参加）は、とても良い話です。ドルノゴビ県からはじまったこのプロジェクトは、もっと広くなり、モンゴルの他地方の技術者が、日本の皆さまから講義を受けることは大切で、できるだけ応援していきたいと思えます。
- ・ 私（トゥムルホヤグ社長）は、静岡県を訪問したことがあります。両県による小学生の交流行事でしたが、静岡県は自然豊かで大変良いところでした。過ごした日の思い出を今でも皆と良く話しています。本日、同席のサンライジャブ氏とバヤラー氏も静岡県を訪れています。

<ムンフバートル チーフエンジニアコメント>

- ・ 皆さんお越し下さり本当にありがとうございます。静岡県とドルノゴビ県は友好協定を締結していますが、技術者の立場で見ると現在の派遣や研修事業は、公式と言うより仲良し交流となっていると感じています。先ほど社長からも話がありましたが、建設・都市開発省からのモンゴル技術者の研修への参加の申し出は大変良いことだと思います。
- ・ 私は鳥取県のエバミタウンと言うところで、下水処理プロジェクトの交流に行きました。その時の話では、モンゴルの下水道の状況は、日本の1970年代の状況で、私たちはいわゆる40年代遅れているということです。
- ・ モンゴルの場合、人口が1~3万人の郡が多くあります。これから実施される研修内容について3つのリクエストがあります。一つ目は、モンゴルの一つの街の人口は少なく、大きな下水処理場よりも処理能力が1,000~5,000m³/日の下水処理場のつくり方と維持管理について情報があると望ましいです。
- ・ 二つ目は、日本とモンゴルでは、流入してくる下水の成分が全然違います。日本の場合は、臭いも少なく色も薄いのですが、モンゴルの場合は、食生活において特に肉を食べるので下水の臭いがひどく、色も油の影響で黒く濃いため、そのような状況を踏まえた上で、研修が行われることが望ましいです。

- ・ 三つ目は、モンゴル全人口の50%以上はゲル地区に住んでいて、ゲル地区は汲み取り式のトイレです。ゲル地区でも使える下水処理のアイデアについても教えていただき、40年の遅れを少しでも追いかけることができるよう私どもは皆さんの知識と技術を身につけたいと思います。

[サインシャンド郡で計画されている新下水処理場について]

- ・ サインシャンド郡に計画している新下水処理場は、アジア開発銀行の支援を受けたもので、先週、モンゴル国政府とアジア開発銀行は協定を締結し、法務省のチェックを受けて許可が下りました。
- ・ 新下水処理場の設計は、昨年、モンゴルのハイドロデザインプロジェクトという会社が行い、これから施工会社の入札を行います。計画地はサインシャンド中心から南に約6kmです。選挙の影響で予定が少し遅れており、来年に施工がはじまり、11月頃には完成の予定です。設計では、2025年の4万6千人の人口をもとに算出し、処理能力は4,200m³/日ですが、汚水の流入量はまだわかりません。ドルノゴビ県の都市計画課が担当しています。

<チャンダマン・イルチ公社の概要：説明者 トゥブシンバヤル氏>

- ・ チャンダマン・イルチ公社は、上水、下水、暖房、管渠の維持管理の4つの事業を行っている。公社には、給水、暖房、技術、管渠など5つの課があります。
- ・ 上水は、サインシャンド郡から22~27km離れた場所に3つの井戸があり、地下90mから地下水をポンプで汲み上げ、サインシャンドにある1,000tの2つの貯留タンクから自然流下させている。上水管（青色の線）の延長は38kmで、その中の64%はファイバー管です。サインシャンド郡の一日の上水の使用量は、1,400~1,700m³/日です。
- ・ 人口の増加ですが、2013年1万9千人、2018年2万5千人、2025年には4万6千人となる予想です。
- ・ サインシャンド郡には4,000世帯の住居あり、このうち下水管に接続している世帯は2,492世帯です。それ以外はゲル地区の1,400世帯で、上下水道に接続されていません。住居が高い場所にあつたり、点在しており、管渠を引くのが大変なため、浄化槽があれば良いと考えています。サインシャンド郡の北側は、鉄道局が管理し、そこには500世帯あります。下水管の延長は17kmで、そのうち6.8kmはアジア開発銀行の支援で、無償で新しくした。新下水処理場は、チャンダマン・イルチと鉄道局が担当しているものを合わせ、約4,000世帯の計画です。

- ・ 旧下水処理場は、1986年に稼働しました。処理能力は1,800～2,500m³/日です。当時の管理はロシア人が行っていた。1996年まで稼働していたが、モンゴル国の民主化に伴いロシア人は引き上げ、維持管理をする専門家もいなくなり、建物は老朽化し使えなくなった。
- ・ 2007年からアジア開発銀行のプロジェクトで、バイオ池を造り、そこに汚水を入れたがあまり上手くいかなかった。バイオ池は夏期だけ使えるもので、汚水を集めて蒸発させ、残ったものを捨てている。冬期は凍ってしまうので、そのままラグーンで捨てている。そのため、新しい下水処理場は大事なものとなっている。
- ・ 皆さんも感じていると思うが、サインシャンド郡の場合は、1986年からの20年間で2つの下水処理方法を実施したが、あまり上手くいかなかった。現在、新下水処理場の計画があるが、これももしかしたら10年後には使えなくなる恐れもある。日本の皆さんの技術や知識を使って、モンゴルの技術者を育成していくことが一番大切だと思う。

<チャンダマン・パドラル公社社長 サンライジャブ氏コメント>

- ・ 新下水処理場ですが、設計や説明書を見ると、最新の技術や設備を使っているとの話を聞いていたが、日本の設備を見たら、私たちのものは、50年前に日本が使っていた技術だと言うことに気がつきました。
- ・ 現在、ザミンウード郡に建設された新下水処理場は、昨日もお話ししたように、沈砂池とか設備は全部揃っているが、仕切りの壁や設備の蓋がなく、一つ屋根の下に全部入っていて、働く人がいられないほど臭いがひどく、衛生的にも健康的にも良くないと思う。中国（人）が建設したので受け取るしかないが、日本の技術を使って壁や蓋を整備し、自分たちで直していかないといけないと思っている。
- ・ 新下水処理場の処理能力は3,000m³/日で、規模としては大きすぎる。実際の流入量は、400～500m³/日なので、コストが高くなってしまい、コストダウンの対策を立てなければならぬ。チャンダマン・パドラルの二人の技術者が静岡県で研修を受けたが、出発前には、私たちの郡に新下水処理場ができたことを喜んでいましたが、帰国してからは、自分たちの処理場の設備や技術が古く、日本の進んだ処理場の設備に驚いていた。私は研修を受けた二人の技術者に宿題を出した。新下水処理場の維持管理のコストダウンのために何をしたら良いか考えてほしいというものです。
- ・ モンゴル国建設・都市開発省から申し出のあった、モンゴル国内の技術者が静岡県の皆さんが実施する講義を受けることは大変素晴らしいことです。モンゴルの技術者が外国で研修を受けることができる機会は非常に少ないです。最近では、優れた技術者はヘッドハンティングされる可能性が高いので、私どもの技術者が高い知識や技術を身につけることができるよう皆さんの力を借りて取り組んでいきたいと思っている。

【現地視察】

- ・視察日：2016年（平成28年）8月6日（土）午後
- ・視察場所：旧下水処理場跡地、現下水簡易処理場（バイオ池）、新下水処理場計画地
- ・視察案内：チャンダマン・イルチ公社 ムンフバータル チーフエンジニア、
トゥブシンバヤル氏、アルタンゲレル氏（2016本県受入研修員） ほか

【ドルノゴビ県庁表敬訪問（知事同行）】

- ・訪問日：2016年（平成28年）8月7日（日）午前
- ・出席者：〔ドルノゴビ県側〕

ドルノゴビ県 エンフトゥヴシン知事、副知事、トゥメンバヤル県議会議長、
エルデネツェツェグ県議会事務局長、ツェツェングマー外交・社会基盤部長

〔静岡県側〕

川勝知事、矢野静岡県顧問、渥美・阿部・田口・木内県議会議員、増井地域
外交監、村松交通基盤部長 ほか

- ・会談内容：静岡県の概要（映像）、ドルノゴビ県の概要（PP）、両県交流の歴史ほか

【ドルノゴビ県主催歓迎晩餐会】

- ・訪問日：2016年（平成28年）8月7日（日）夕方
- ・出席者：〔ドルノゴビ県側〕

ドルノゴビ県 エンフトゥヴシン知事、ツェツェグマー副知事、トゥメンバヤル
県議会議長、行政官房長、ツェツェングマー外交・社会基盤部長、バヤラー
開発戦略課長

〔静岡県側〕

川勝知事、矢野静岡県顧問、渥美・阿部・田口・木内県議会議員、増井地域
外交監、村松交通基盤部長 ほか

<ドルノゴビ県 エンフトゥヴシン知事 挨拶要旨>

- ・ 私どもは、本日、川勝知事をはじめとする訪問団の皆さんとお会いできたことを大変うれしく思う。ドルノゴビ県と静岡県の交流は、両国の良好な関係を象徴する代表的な交流である。

- 両県の過去5年間にわたる交流の実績をもとに、これからの4年間、さらに様々なレベルでの行政間、民間間の協力事業を進めていければ良いと思っている。特に人材育成、人的交流、人づくりについては、これまで以上に力を入れていきたいと考えており、また、インフラ整備、電力事業等でも協力できる可能性を探っていけたら良いと考えている。
- 対外政策、外交関係、国際協力というものは、政治とは関係なく、いわゆる超党派でなければいけないと考えます。これまでの先輩方が築きあげてきた国際協力、親善関係をさらに我々が引き継いでいかなければいけません。
- この度は、はるばる遠いところからドルノゴビ県に足を運んでいただき、モンゴルに初めての方もいると思いますが、遊牧生活、モンゴル人のライフスタイルに触れ、良い思い出を持って帰っていただければうれしく思う。皆様におかれては、今後のご活躍をお祈りして開会の挨拶とします。

<川勝知事 挨拶要旨>

- 尊敬するエンフトゥヴシン閣下、トゥメンバヤル議長先生、ドルノゴビ県の友人の皆さま、静岡県代表団を代表しまして一言、御礼を申し上げる。
- 実は本日午前9時に、エンフトブウシン知事に会うまでは、一抹の心配があった。ひょっとして、これまでの5年間の蓄積と違うことを言われるかどうかということでしたが、最初の知事の説明で、そして、今の挨拶でも同じでしたが、5年間の蓄積をさらに進めていきましょうとの言葉に心から安心をし、また、あらためて敬意を感じた次第です。
- 本日は誠に充実した中身のあるおもてなしをいただき、全員を代表して心から厚くお礼を申し上げます。あのミニナーダムは感動的でした。そして、また、大地も感動的でした。そして、バイエル議長の司会のもとで、また、こちらの議員、阿部代表の司会のもとで、両県議員がそれぞれ一言ずつ意見を述べあえたのも、重要な中身のある会議だったと喜んでいます。
- ミニナーダムの場で、偶然、モンゴルの高校生と話をする機会がありました。高校生の名前は、オーダンバエルと言っていましたが、彼は昨年 of 高校生交流に高校2年生として参加し、日本人が好きになって、1年間で私どもと日本語の会話ができるまでになったのであります。どのような勉強をしているか聞いたところ、独学だとのことで、益々、感じ入りまして、この子は連れて帰りたいたいと思ったくらいです。
- 私どもは、若い人材を育ていくために、様々な分野で具体的に建設的な両県の関係ができるように、この次、11月に皆さまがお越しになるときは、具体的な中身に入った意見交換ができるという期待を強く持っています。

- ・ 最後になりますが、我々は、午後9時過ぎの列車でウランバートルに向かいます。本日は、お昼、そして、この晚餐と、すばらしいおもてなしをいただきましたこと、重ねて重ねて、厚くお礼申し上げて挨拶といたします、バヤルラー。

<村松交通基盤部長 挨拶要旨>

- ・ ただいま紹介いただきました交通基盤部長の村松です。私どもは、ドルノゴビ県の下水道の運営・維持管理の向上に関するプロジェクトを進めています。
- ・ 今年、来年と年2回、ドルノゴビ県の技術者が静岡県を訪問し、また、静岡県の技術職員がドルノゴビ県を訪れるものです。既に、今年の5月から6月にかけて、ドルノゴビ県の技術者4名が技術研修を受けるため、2週間、静岡県を訪れました。また、3週間後の8月下旬には、静岡県の技術職員5名が、ドルノゴビ県で下水道に関する講義などを2週間にわたり実施することとなっています。
- ・ 実は、ドルノゴビ県を訪問する前に、モンゴル国の建設・都市計画省を訪問したところ、ドルノゴビ県で我々が行う研修にモンゴル国全21県の技術者を参加させることができないかと言われ、了解することで調整しています。
- ・ 私ははじめてモンゴル国、ドルノゴビ県を訪れましたが、とても良いところでした。そして、ドルノゴビ県の皆さまが下水道の維持管理に関する私どもの取組に、本当に大きな期待を寄せていることがわかりました。これから一生懸命、この取り組みを進めていきたいと思う。

【 在モンゴル日本国大使館 】

- ・ 訪問日：2016年（平成28年）8月8日（月）午前
- ・ 面談者：穂積二等書記官
- ・ 目的：表敬訪問

<穂積二等書記官コメント>

- ・ モンゴル国建設・都市開発省が、静岡県の実施する技術研修にモンゴル国の技術者を参加させたいとの申し出は、静岡県への期待の表れである。
- ・ 下水処理場が建設されたドルノゴビ県ザミンウッド郡は、大きな都市なので、衛生的にもそうだが、今後の発展を見込み、今のうちに下水施設の整備を進めていくものであると思う。静岡県が取り組まれているプロジェクトも1年半近くが経過し、本格的な活動に入っているが、引き続き、モンゴル国、ドルノゴビ県のために力を注いでいただきたい。私どもでできることがあれば、支援していく。

【 静岡県主催 合同懇親会 】

- ・開催日：2016年（平成28年）8月8日（月）夕方
- ・出席者：在モンゴル日本国大使館 清水特命全権大使、モンゴル国政府関係者、ドルノゴビ県 トゥメンバヤル県議会議長、モンゴル国研修生、モンゴル国マスコミ関係者、旭鷲山(元関取)、JICAモンゴル 小見川企画調査員、静岡県知事団関係者 ほか